

令和5年度 第4回広島市感染症対策協議会

- 【日時】 令和5年9月19日(火) 19:00~20:00
【場所】 広島市役所14階第7会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、
平賀 正文、増田 裕久、梶梅 輝之、長岡 義晴、岡野 里香、阿部 勝彦

1 感染症に関する最近の情報

(1) 新型コロナウイルスワクチン接種について (資料1 P1~20)

・国により、令和5年9月8日に開催された第50回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会の議論を踏まえ、使用ワクチンに係る以下の方針が示された。

①令和5年秋開始接種で使用するワクチン

オミクロン株 XBB.1.5 対応1価のワクチンの使用を基本とする。

具体的には、令和5年9月1日に薬事承認されたファイザー社製のオミクロン XBB.1.5 対応1価ワクチンを使用ワクチンに位置づける。

また、何らかの理由で mRNA ワクチンが接種できない方の選択肢を確保するため、武田社ワクチン(ノババックス)についても、使用ワクチンに位置づける。

※モデルナ社製のオミクロン XBB.1.5 対応1価ワクチン等は、薬事承認がなされた場合、改めて分科会において令和5年秋開始接種での使用ワクチンに位置づけるかの検討を行う。

②9月20日以降の初回接種で使用するワクチン

ファイザー社製のオミクロン XBB.1.5 対応1価ワクチンとする。

※何らかの理由で mRNA ワクチンが接種できない方の選択肢を確保するため、武田社ワクチン(ノババックス)についても従前どおり接種が可能

・令和5年5月8日以降の追加接種の接種回数は186,221回、うち高齢者は170,443回(接種率55.5%)(令和5年9月10日現在)

(委員意見)

・引き続きワクチン接種を進めてほしい。

(2) インフルエンザの発生状況について (資料1 P21~24)

本市における令和5年のインフルエンザの発生状況については1月11日以降、定点医療機関からの報告件数が流行入りの目安である1.0を断続的に上回っている。

このような状況の中、令和5年9月7日、市内小学校において、今シーズン初となるインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告があった。(過去10年間で最速)。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の報告は、全国で相次いでおり、県においては、第35週(8月28日(月)~9月3日(日))の報告数が注意報レベルを上回ったため、9月7日付けでインフルエンザ注意報が発令された。

今後、本格的な流行シーズンを迎えることが予想されるため、本市では、市民に対し、手洗いや咳エチケットの励行等と呼び掛けるとともに、10月15日から開始される65歳以上の市民を対象としたインフルエンザの定期予防接種について周知を図っていくこととしている。

(委員意見)

・インフルエンザの定期予防接種について周知を図り、今後の発生状況に注視してほしい。

(3) デング熱に関する注意喚起等について (資料1 P25~37)

令和5年8月23日、国は、本年これまでに熱帯、亜熱帯地域においてデング熱の大規模な流行が報告されており、今後、海外渡航者の輸入感染症例等が増加する可能性があるため、各都道府県及び保健所設置市等に対し、デング熱をはじめとする蚊媒介感染症の予防対策等の徹底について注意喚起

を行った。

これを受け、本市ではホームページを通じて、海外へ渡航する者に対し、予防のための防蚊対策及び流行地域からの帰国後に、発熱、発疹など疑わしい症状がある場合は、蚊に刺されないよう注意し、早目に医療機関を受診することについて呼び掛けた。

なお、令和5年9月12日現在、本市におけるデング熱の報告件数は輸入症例として1件である。

本市では、市民に対し、引き続き、ホームページを通じて感染予防対策について周知啓発に努めていきたい。

(委員意見)

- ・海外へ渡航する者に対し、デング熱をはじめとする蚊媒介感染症の感染予防対策について、周知啓発を徹底してほしい。

2 8月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和5年8月分	令和5年9月分
		報告日 8/7 ~9/3	報告日 9/4~9/12 現在
2類	結核	11人 (結核8人、潜在性結核3人)	1人 (潜在性結核1人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人(8/8、8/28)	
4類	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	1人(8/10)	
	デング熱	1人(8/21)	
5類	ウイルス性肝炎	2人(8/15、8/31)	
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2人(8/15、8/28)	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1人(8/24)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1人(8/21)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	1人(8/24)	1人(9/11)
	水痘(入院例に限る)	1人(8/29)	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生状況		1人(9/5)
	後天性免疫不全症候群		1人(9/11)
	梅毒	22人(8/7(2人)、8/12、8/14、8/16、8/18(2人)、8/21、8/23、8/24(5人)、8/25、8/28、8/29(2人)、8/30、8/31、9/1(2人))	5人(9/4(3人)、9/7、9/12)

()は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 令和5年11月20日（月） 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：8月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、8月は2,410人で、前月比0.79とやや減少した。

手足口病は増加、インフルエンザはやや増加、咽頭結膜熱はほぼ横ばい、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんはやや減少、感染性胃腸炎は減少、RSウイルス感染症、ヘルパンギーナは大きく減少した。

(2) 特記事項

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、第36週(9月4日～10日)に定点当たり14.9人の報告があり再び増加している(図1)。学校や高齢者施設等での集団発生も増加しており注意が必要である。手洗い、換気、マスクの効果的な場面での着用など、基本的な感染対策を徹底することが大切である。
- 手足口病は、第36週に定点当たり4.04人の報告があり、多い状況である(図2)。基本的に予後は良好であるが、髄膜炎や脳炎などの中枢神経系の合併症を生ずることがある。国立感染症研究所の病原体検出情報によると、今年は9月7日時点で手足口病患者(n=119)の半数近くからエンテロウイルス71型が検出されており、本市でも2件検出されている。手足口病の原因となるウイルスの中で、エンテロウイルス71型は中枢神経系合併症の発生率が他のウイルスより高いことが知られており注意が必要である。

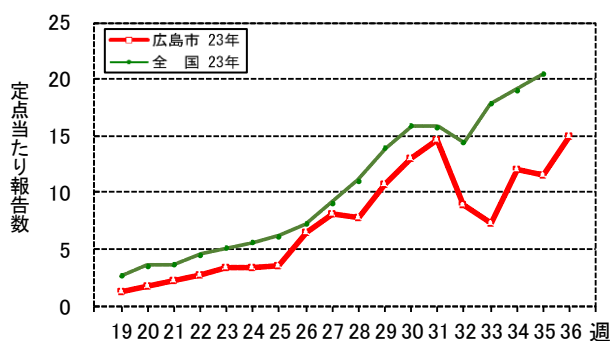


図1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行状況

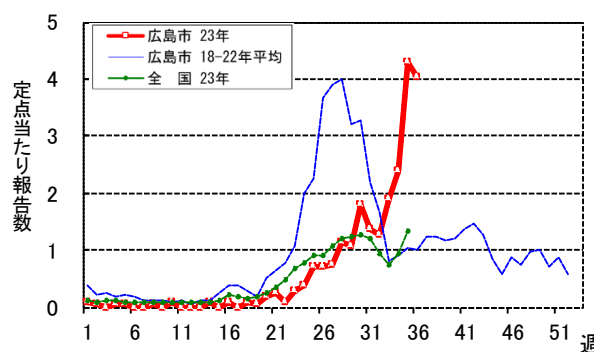


図2 手足口病の流行状況

- インフルエンザは、第36週に定点当たり1.56人の報告があり、流行開始の目安である定点当たり1.00人を上回る状況が続いている。また、9月7日に今シーズン初めてのインフルエンザ様疾患による学級閉鎖が報告された。県内では、西部東保健所管内で注意報開始基準値(定点当たり10)を上回ったため、広島県は9月7日、県内に「インフルエンザ注意報」を発令した。新型コロナウイルス感染症と同時流行になる可能性もあり、手洗い、咳エチケットなど感染予防対策を徹底することが重要である。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、第36週に定点当たり2.67人の報告があり再び増加している。
- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の報告が1件あった。SFTSは、マダニが媒介する感染症で、患者は春から秋にかけて多く発生する。感染予防には、マダニに咬まれないようにすることが重要である。
- デング熱(推定感染地域:国外)の報告が1件あった。今年は、熱帯、亜熱帯地域でデング熱の大規模な流行が報告されており、流行地域に渡航する際は蚊に刺されないように注意することが重要である。

(3) 8月の1類～5類感染症(全数報告)患者発生数

- 1類感染症: なし
- 2類感染症: 結核11件(患者:8件、潜在性結核:3件)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症: 重症熱性血小板減少症候群 1件、デング熱 1件
- 5類感染症: ウイルス性肝炎 2件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 2件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、水痘(入院例に限る) 1件、梅毒 22件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件

(4) 今後の流行予測

インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎…【流行始まり】
 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)、手足口病…【流行中】
 梅毒…【増加傾向】発生動向に注意が必要である。

2 検査情報

8月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H3)型	7月	1人
	ライノウイルス	7月	1人
感染性胃腸炎	アデノウイルス 1型	6月	1人
手足口病	エンテロウイルス 71型	6月	1人
	*1 RSウイルス	6月	1人
	*1 エンテロウイルス 71型		
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A2型	6月	1人
	コクサッキーウイルス A2型	7月	2人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 37型	7月	5人
	アデノウイルス 54型	7月	1人
	アデノウイルス 56型	7月	1人
無菌性髄膜炎	コクサッキーウイルス B5型	6月	1人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	パラインフルエンザウイルス 3型	6月	2人
	ライノウイルス	6月	1人
その他の疾患（不明熱）	コクサッキーウイルス B5型	7月	1人

*1：複数病原体検出例

20人の患者から11種類のウイルス21株が検出された。検出ウイルスの内訳は、アデノウイルス37型5株、コクサッキーウイルスA2型3株、エンテロウイルス71型、コクサッキーウイルスB5型、パラインフルエンザウイルス3型及びライノウイルス各2株、RSウイルス、アデノウイルス1型、同54型、同56型、インフルエンザウイルスA(H3)型各1株であった。

5類感染症定点情報
(令和5年8月解析分)

1. 週報対象(第32週～第35週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		160	4.48		11	ヘルパンギーナ		83	3.49	
2	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		1,413	39.74		12	流行性耳下腺炎		5	0.20	
3	RSウイルス感染症		44	1.85		13	急性出血性結膜炎		-	-	
4	咽頭結膜熱		36	1.51		14	流行性角結膜炎		10	1.26	
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		149	6.27		15	細菌性髄膜炎		-	-	
6	感染性胃腸炎		216	9.09		16	無菌性髄膜炎		-	-	
7	水痘		15	0.64		17	マイコプラズマ肺炎		-	-	
8	手足口病		234	9.81		18	クラミジア肺炎		-	-	
9	伝染性紅斑		-	-		19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		-	-	
10	突発性発しん		20	0.83							

2. 月報対象(8月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		46	5.11
2	性器ヘルペスウイルス感染症		14	1.56
3	尖圭コンジローマ		8	0.89
4	淋菌感染症		20	2.22
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		23	3.29
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		1	0.14
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		1	0.14

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和5年8月分)

第32週～第35週(8月7日～9月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	11	92	1,228	9,369
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	1
	16 細菌性赤痢	-	-	4	27
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	13	597	2,332
	18 腸チフス	-	-	1	27
	19 パラチフス	-	-	-	6
四類	20 E型肝炎	-	1	27	388
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	-	1	34
	23 エキノコックス症	-	-	1	10
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	1	7
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	7	17
	28 キャサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	32 エムボックス	-	1	3	188
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	1	2	5	109
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	2
	40 つつが虫病	-	-	5	113
	41 デング熱	1	1	31	84
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	3	67	277
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	1
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ポツリヌス症	-	-	-	-
	55 マラリア	-	-	5	15
	56 野兎病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	5	20
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	-
	61 レジオネラ症	-	26	170	1,430
	62 レプトスピラ症	-	-	7	15
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	-	5	47	343
	65 ウイルス性肝炎	2	6	20	173
	66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2	8	198	1,266
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	4	41
	68 急性脳炎	-	3	39	364
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	2	7
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	16	104
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	54	558
	72 後天性免疫不全症候群	-	6	63	638
	73 ジアルジア症	-	-	4	32
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	3	50	377
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	11
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	1	12	126	1,202
	77 水痘(入院例に限る。)	1	4	23	254
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	22	203	1,160	10,110
	80 播種性クリプトコックス症	-	-	11	116
	81 破傷風	-	-	9	71
	82 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	7	4	82
	84 百日咳	-	2	76	631
	85 風しん	-	-	-	11
	86 麻しん	-	-	3	25
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	11
	88 新型コロナウイルス感染症 注1)注2)	-	371,198	-	33,778,575

注1) 全国データは、厚生労働省HPから引用(空港検疫及びチャーター便帰国者を除く(2023年5月8日時点速報値))。

注2) 広島市、全国の累積は2020年から2023年5月7日までの合計。